

【日露首脳会談】北方領土交渉の前進で一致 プーチン大統領訪日は「ベストなタイミングを探る…」

【ニューヨーク=桑原雄尚】安倍晋三首相は28日午後（日本時間29日未明）、ロシアのプーチン大統領と米ニューヨークの国連本部で会談し、北方領土問題について、双方が受け入れ可能な解決策を作成するため、交渉の前進を図ることで一致した。11月のアジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議など国際会議の機会を活用し、首脳間の対話を継続することでも合意した。

プーチン氏の訪日については、年内に実現するとの今年の合意に基づき、「ベストなタイミングを探る」との方針を確認した。

会談の冒頭、首相は自身の自民党総裁再選に触れ、「これにより、さらに腰を据えて平和条約交渉に取り組む素地が整った。2国間関係を発展させたい」と強調。これに対し、プーチン氏は「両国間のあらゆる方面でコンタクトが活発化している。貿易額は減っているが、経済協力に大きな潜在力があると信じている」と期待感を示した。

プーチン氏の年内訪日をめぐり、首相は「ベストなタイミングで実現したいという気持ちは変わっていない。そのために政治、経済分野で成果を準備したい」と表明。その上で「そうした準備は建設的で静かな雰囲気の中で進めていきたい」とも述べ、ロシア高官の北方四島訪問といった挑発行為を行わないよう牽制（けんせい）した。

北方領土交渉に関しては、両首脳は外務次官級協議を10月8日にモスクワで開くことを改めて確認。首相は「平和条約交渉すなわち領土問題については、（協議再開を決めた）2013年4月の両首脳の合意に沿って進展させていく必要がある」と語った。

また、首相はウクライナ情勢に関し、今年2月のミンスク和平合意の完全履行に向け「ロシアが建設的な役割を果たすことを強く期待している」と強調。プーチン氏は「ウクライナ側も合意をしっかりと順守する必要がある」と指摘した。両首脳はシリア問題をめぐっても意見交換した。

会談時間は約40分で、最後の10分間は両首脳と通訳だけで行われた。両首脳の会談は昨年11月以来約10カ月ぶりとなった。